

国際石油開発帝石株式会社
2020年12月期 第2四半期 決算説明会

参考データ集

2020年8月7日



連結子会社および持分法適用関連会社

連結子会社 65社

主な連結子会社	国(地域)名	出資比率	フェーズ	決算期
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	12月
JODCO Onshore Limited	アラブ首長国連邦	51%	生産中	12月
JODCO Lower Zakum Limited	アラブ首長国連邦	100%	生産中	12月
サウル石油	東チモール民主共和国	100%	生産中	12月
INPEX Ichthys Pty Ltd	オーストラリア	100%	生産中	12月
インベックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	12月
インベックス北カスピ海石油	カザフスタン	51%	生産中	12月
INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	オーストラリア	100%	生産中	12月
INPEX Eagle Ford, LLC	アメリカ合衆国	100%	生産中	12月

持分法適用関連会社 20社

主な持分法適用関連会社	国(地域)名	出資比率	フェーズ	決算期
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	生産中	12月
Angola Block 14 B.V.	アンゴラ	49.99%	生産中	12月
Ichthys LNG Pty Ltd	オーストラリア	66.245%	生産中	12月

■ 2020年12月期 第2四半期(2020年1月1日～6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	調整額*1	連結財務諸表計上額*2
売上高	63,147	119,527	29,541	175,029	7,943	395,190	△3,507	391,683
セグメント利益又は損失(△)	12,565	31,937	△1,580	89,621	△2,431	130,111	△6,312	123,799

*1 セグメント利益の調整額△6,312百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しないのれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。

*2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

LPG売上高

	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	20年12月期第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
売上高(億円)	13	14	0	6.2%

販売量(千bbl)	152	160	9	5.6%
海外生産分平均単価(\$/bbl)	44.86	35.13	△ 9.73	△ 21.7%
国内生産分平均単価(¥/kg)	69.79	61.35	△ 8.44	△ 12.1%
平均為替(¥/\$)	110.14	108.03	2円11銭円高	1.9%円高

地域別販売量(千bbl)	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	20年12月期第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
日本	2 (0.2千ト)	1 (0.1千ト)	△ 0 (△0.0千ト)	△ 25.5%
アジア・オセアニア	150	159	9	6.0%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	152	160	9	5.6%

(億円)	(参考値) 前年同一期間 (2019年1月-6月)	20年12月期第2四半期 (2020年1月-6月)	増減	増減率
営業外収益	232	453	221	95.2%
受取利息	17	5	△ 12	△ 67.1%
受取配当金	64	59	△ 4	△ 7.6%
持分法による投資利益	95	307	211	222.8%
為替差益	-	37	37	-
その他	55	44	△ 10	△ 19.4%
営業外費用	216	199	△ 17	△ 8.1%
支払利息	134	115	△ 19	△ 14.4%
生産物回収勘定引当金繰入額	-	22	22	-
探鉱事業引当金繰入額	2	-	△ 2	△ 100.0%
為替差損	56	-	△ 56	△ 100.0%
その他	23	61	37	158.4%

利払い・償却・探鉱費前利益 (EBIDAX)

(百万円)	20年12月期第2四半期 (2020年1月-6月)	(参考値) 19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	備考
親会社株主に帰属する純利益	△ 120,799	69,487	P/L
非支配株主に帰属する純損益	△ 655	1,911	P/L
減価償却相当額	107,120	105,770	
減価償却費	88,848	83,047	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	3,380	3,380	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	14,892	19,343	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	6,925	13,551	
探鉱費	4,692	11,642	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金繰入額	2,233	1,909	P/L PS契約に係る探鉱費相当額等
重要な非現金項目	175,982	496	
法人税等調整額	△ 13,147	△ 1,156	P/L
為替差損益	△ 3,320	1,652	C/F
減損損失	192,449	-	C/F
税引後ネット支払利息	7,877	9,070	P/L 税引後の支払利息-受取利息
EBIDAX	176,450	200,285	

(百万円)	20年12月期第2四半期 (2020年1月-6月)	(ご参考) 19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	備考
生産物回収勘定(期首)	568,377	568,059	
増加:			
探鉱投資	2,248	1,950	主にイラク Block10
開発投資	14,744	15,893	主にACG、カシャガン、コンソ
操業費	7,650	9,138	主にACG、カシャガン
その他	3,997	5,396	
減少:			
コスト回収(CAPEX)	14,892	19,343	主にACG、カシャガン
コスト回収(Non-CAPEX)	8,669	7,853	主にACG、カシャガン
その他	-	2,177	
生産物回収勘定(期末)	573,456	571,063	主にカシャガン
生産物回収勘定引当金	69,108	69,765	

原油価格・為替レートのセンシティブティ

■ 油価・為替変動の2020年12月期 親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響額*1

油価1ドル上昇(下落)した場合*2	<p>期初時点: +65億円(△65億円)</p> <p>以下の通り、期中に変化します。</p> <p>第2四半期期初時点: +45億円(△45億円)</p> <p>第3四半期期初時点: +25億円(△25億円)</p> <p>第4四半期期初時点: +10億円(△10億円)</p>
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合*3	+22億円(△22億円)

*1 原油価格(Brent)の期中平均価格が1ドル上昇(下落)した場合、為替が1円円安(円高)になった場合の、期初(2020年1月)時点における2020年12月期の当期純利益に対する影響額を試算したものです。当年度期初時点における財務状況を基に試算したものであり、あくまでも参考値であること、また影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、加えて油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

*2 油価変動が当期純利益に与える影響であり、原油価格(Brent)の期中平均価格の影響を受けます。尚、各四半期期初時点において、販売価格の一部は確定済のため、当該販売価格の確定割合を考慮し、下記の通り、センシティブティの四半期内訳を、試算しております。

第1四半期期初時点: +65億円 (第1四半期: +10億円、第2四半期: +15億円、第3四半期: +20億円、第4四半期: +20億円)

第2四半期期初時点: +45億円 (第1四半期: ---、第2四半期: +10億円、第3四半期: +15億円、第4四半期: +20億円)

第3四半期期初時点: +25億円 (第1四半期: ---、第2四半期: ---、第3四半期: +10億円、第4四半期: +15億円)

第4四半期期初時点: +10億円 (第1四半期: ---、第2四半期: ---、第3四半期: ---、第4四半期: +10億円)

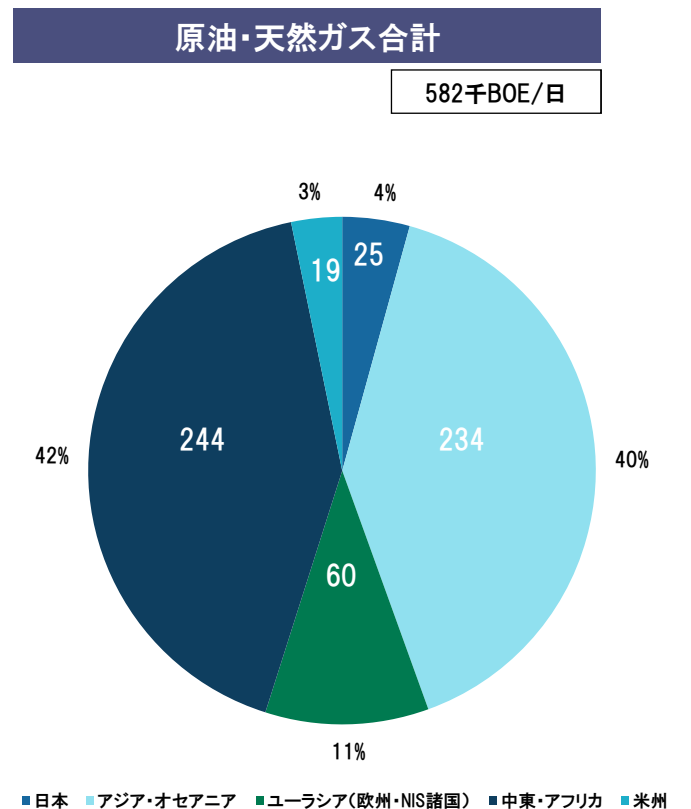
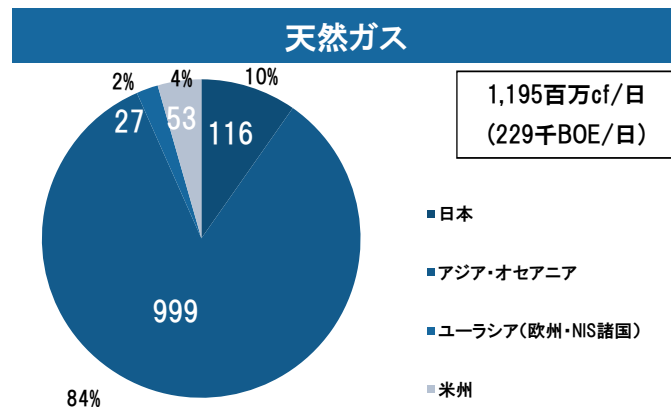
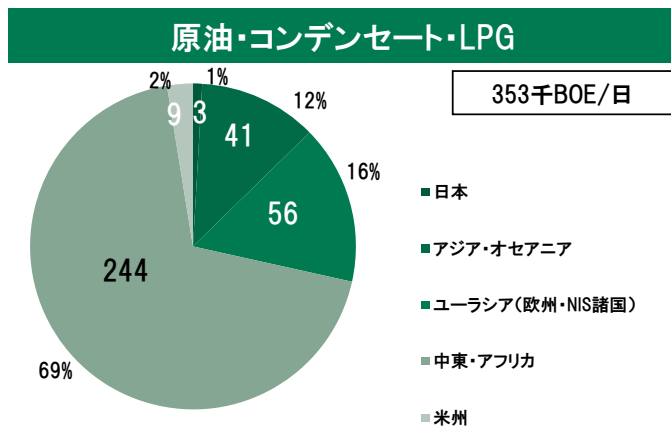
*3 為替変動が当期純利益に与える影響であり、期中平均為替レートの影響を受けます。尚、外貨建て資産と外貨建て負債の差から発生する為替評価損益に係るセンシティブティ(前期末と当期末の期末為替レートの差の影響を受ける)は、ほぼ中立化しております。

2020年12月期予想		2月12日時点	8月6日時点	増減	【参考】 第2四半期累計実績
販売量	原油（千バレル）*1	128,712	115,196	△13,516	60,894
	天然ガス（百万cf）*2	493,815	467,000	△26,815	222,856
	うち海外分	410,601	390,288	△20,313	183,030
	うち国内分	83,214 (2,229百万m ³)	76,712 (2,055百万m ³)	△6,502 (△174百万m ³)	39,826 (1,067百万m ³)
	LPG（千バレル）*3	570	296	△274	160

開発投資額 *4（億円）	2,680	1,770	△910	813
探鉱投資額（億円）	300	130	△170	52
その他（億円）	30	20	△10	3
探鉱費および 探鉱関連引当額 *5（億円）	探鉱費 255 探鉱関連引当額 45 301	探鉱費 112 探鉱関連引当額 38 151	△150	探鉱費 46 探鉱関連引当額 22 69
うち非支配株主持分負担額 *6（億円）	79	72	△7	3

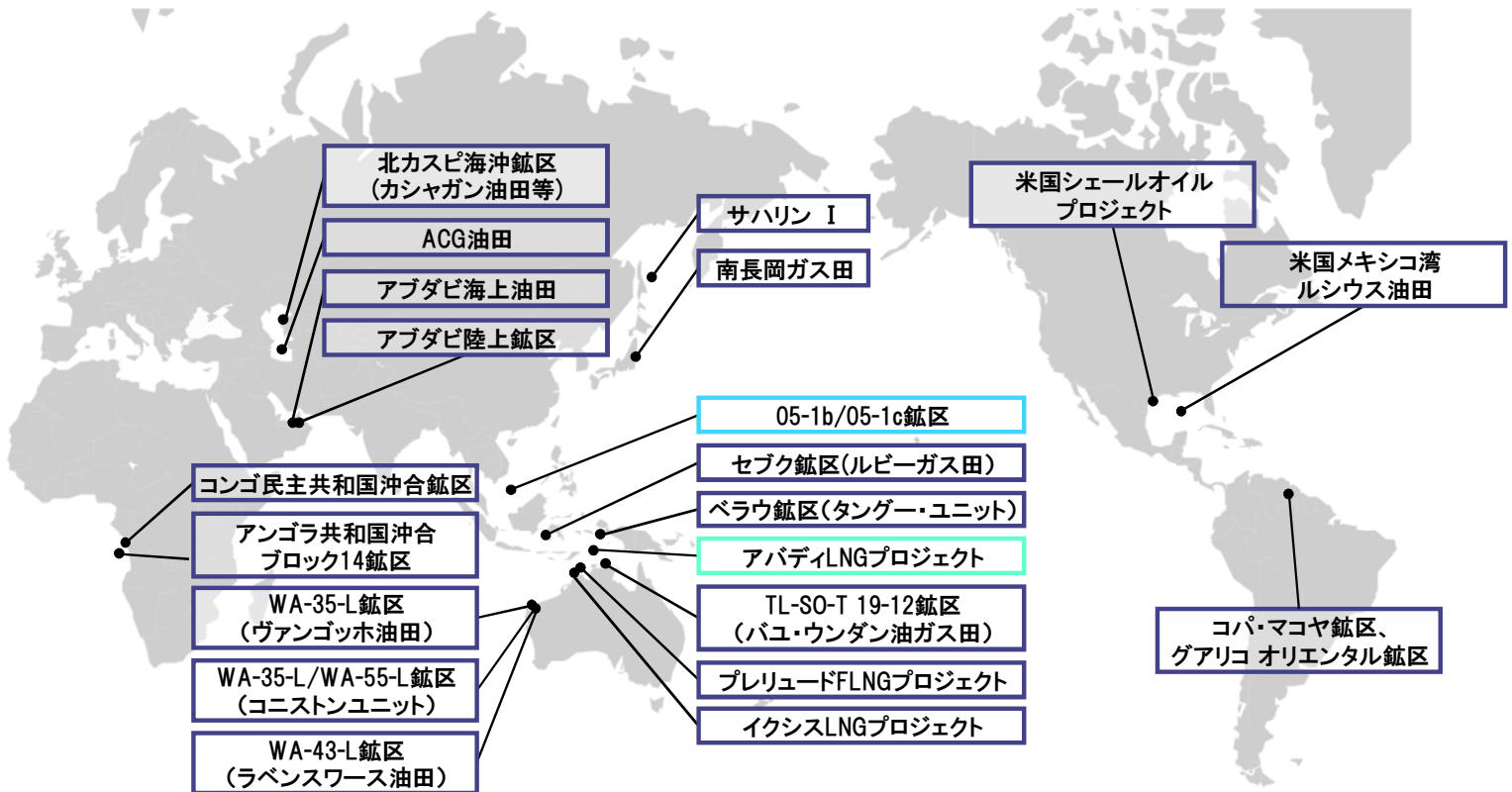
- *1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29bblを使用
- *2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m³=37.32cfを使用
- *3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5bblを使用
- *4 開発投資額にはイクシス下流事業、権益取得支出を含む
- *5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額のうち探鉱関連分
- *6 非支配株主による増資見合い分等

生産量（2020年1月-6月）



* 当社グループが締結している生産分と契約にかかる当社グループの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

主な生産・開発プロジェクト



生産中
 開発中
 開発準備作業中



■ 生産量*1

- 天然ガス:約3.1百万m³/日 (117百万cf/日)
- 原油・コンデンセート:約3千バレル/日

■ 天然ガス販売状況*2

- 2019年12月期(9ヶ月決算)販売量:15.1億m³
- 2020年12月期上半期販売量:10.7億m³
- 2020年代前半に25億m³、長期的に年間30億m³の供給見通し

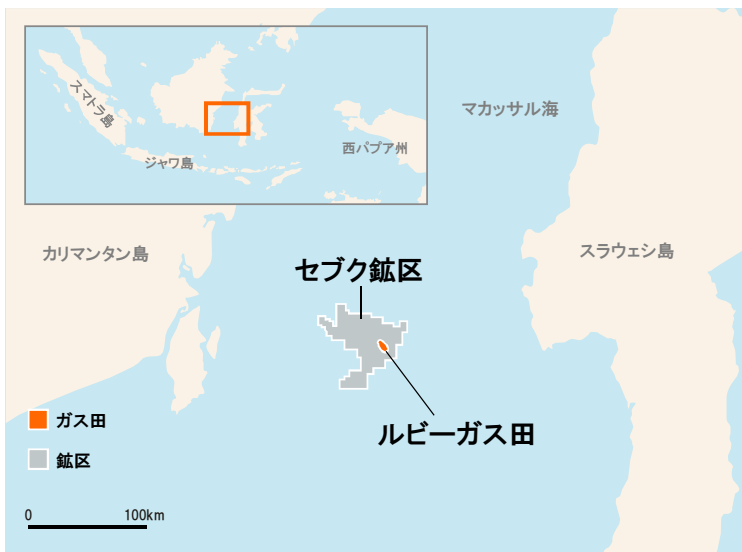
■ グローバルガスバリューチェーンの構築

- 2013年12月、直江津LNG基地の商業運転開始
- 2016年6月、富山ライン完成
- 2018年10月、直江津LNG基地にイクシスLNGプロジェクトの第1船が入船

*1 2020年1月～6月平均日産量

*2 1m³当たり41.8605MJ換算

セブク鉱区 (ルビーガス田)
インペックス南マカッサル石油



■ 当社権益比率: 15%

(オペレーター:PEARLOIL (Mubadala))

■ 生産分与契約:2027年9月21日まで

■ 生産量*1

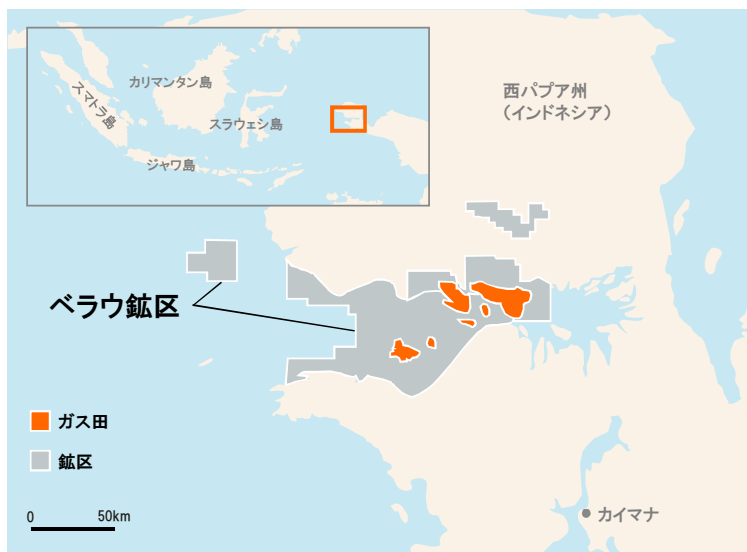
- 天然ガス*2: 日量約91百万立方フィート

■ マイルストーン

- 2010年9月、権益を取得
- 2011年6月、開発移行決定
- 2013年10月、生産開始

*1 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

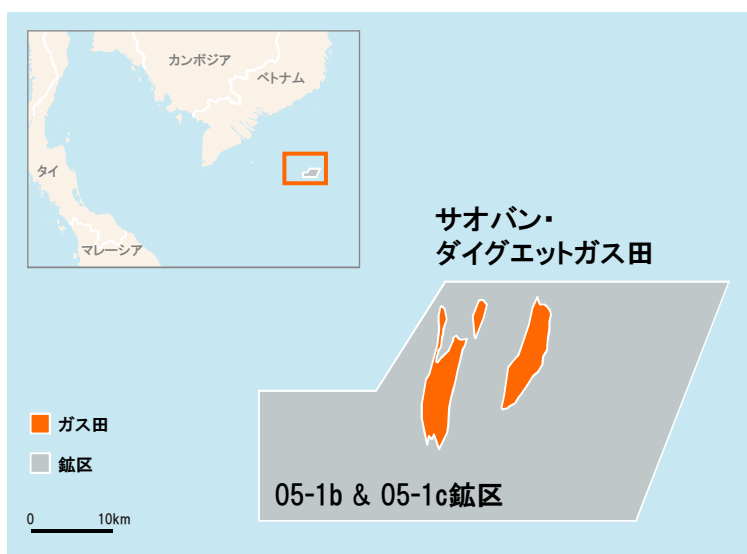
*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量



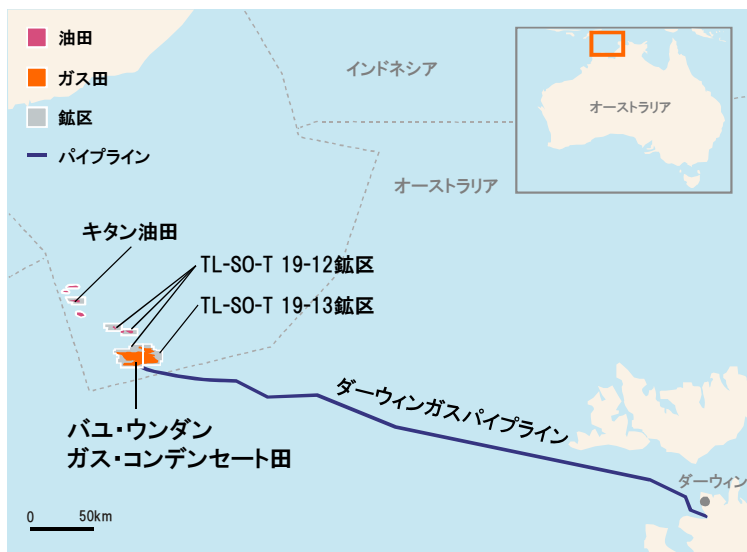
- 当社権益比率:7.79% (ネット)
(タングーユニット) (オペレーター:BP)
- 生産分与契約:2035年12月31日まで
- 生産量*1
 - コンデンセート: 日量約6千バレル
 - 天然ガス*2: 日量約1,146百万立方フィート
- LNG生産量:年間760万トン
- マイルストーン
 - 2009年7月、LNG販売開始
 - 2016年7月、拡張プロジェクト(年間380万トンの生産能力を有する第三液化系列を増設)の最終投資決定、現在建設作業中

*1 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量



- 当社権益比率:36.92%
(オペレーター:出光ベトナムガス開発)
- 生産分与契約:2034年11月17日まで
- マイルストーン
 - 2011年2月、試掘井掘削の成功
 - 2013年6月、ガス・コンデンセート層を発見
 - 2014年8月、ガス・コンデンセート層を発見
 - 2018年2月、最終投資決定
 - 2020年後半の生産開始を目指し開発作業中



一部暫定領海線を含む

*1 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

■ 当社権益比率: 11.378120%
(オペレーター: Santos)

■ 生産分与契約: 2022年2月6日まで

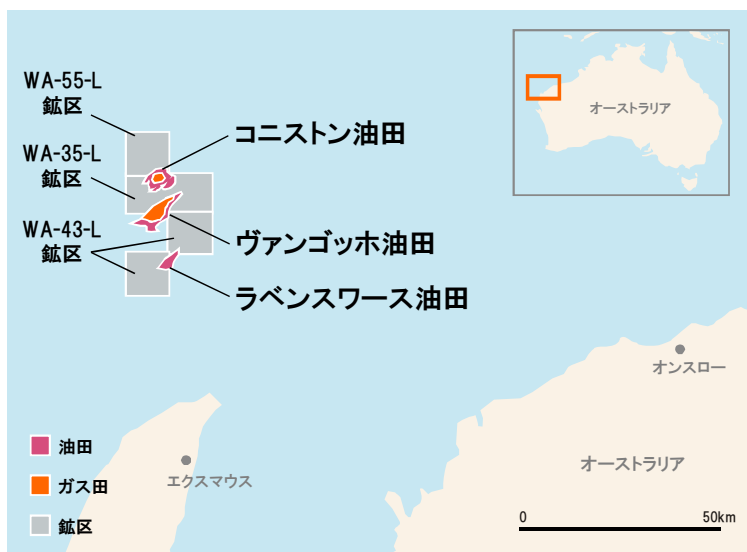
■ 生産量*1

- コンデンセート: 日量約0.9万バレル
- LPG: 日量約0.4万バレル
- 天然ガス*2: 日量約339百万立方フィート

■ マイルストーン

- 2004年2月、コンデンセート/LPG販売開始
- 2005年8月、東京電力(現JERA)/東京ガスとLNG販売契約締結
- 2006年2月、LNG販売開始
- 2018年3月、東チモール・豪州両政府は、チモール海の領海線に関する新条約に調印。両国間の海上国境の画定を受け、2019年8月に、バユ・ウンダン・ガス・コンデンセート田について、旧PSCを終結し、東チモール政府と新たなPSCを締結。(旧PSCと同等条件での事業継続決定済)

ヴァンゴッホ油田、コニストン油田及びラベンスワース油田
アルファ石油



ヴァンゴッホ油田(WA-35-L)/コニストン油田(WA-35-LおよびWA-55-L鉱区)

■ 当社権益比率: 47.499% (オペレーター: Santos)

■ 利権契約: 生産終了まで

■ マイルストーン

- 2010年2月、ヴァンゴッホ油田にて原油生産開始
- 2015年5月、コニストン油田にて原油生産開始
- 2016年7月、コニストン油田ノバラ構造にて原油生産開始
- 2019年1月、ヴァンゴッホ油田追加開発井から原油生産開始
- 2020年3月、FPSOのドライドックのため、生産を一時停止

ラベンスワース油田(WA-43-L鉱区)

■ 当社権益比率: 28.5% (オペレーター: BHP)

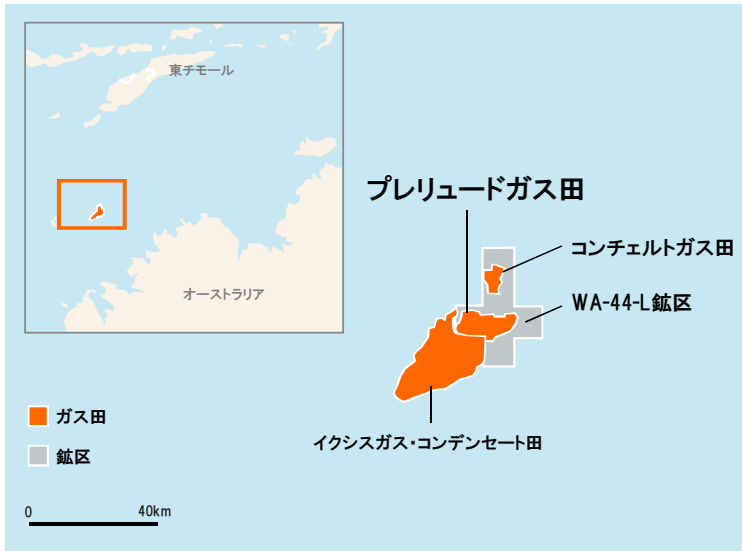
■ 利権契約: 生産終了まで

■ 原油生産量*: 日量約3千バレル

■ マイルストーン

- 2010年8月、生産開始

* 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

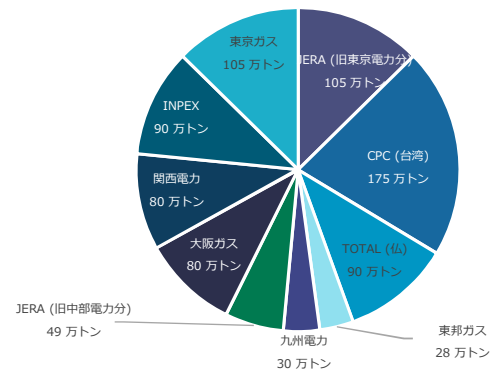


- 権益比率:17.5%(オペレーター: Shell)
- 利権契約:生産終了まで
- 生産能力
 - LNG* 年間360万トン
 - LPG 年間約40万トン(ピーク時)
 - コンデンセート 年間130万トン(ピーク時)
- マイルストーン
 - 2011年5月、最終投資決定
 - 2018年12月、生産井からのガス生産を開始
 - 2019年3月、コンデンセート出荷開始
 - 2019年6月、LNG出荷開始
 - 2019年7月、LPG出荷開始

* 当社権益相当年間約63万トンのLNGの売買について、JERA(年間約56万トン)、静岡ガス(年間約7万トン)それぞれと合意

イクシスLNGプロジェクト概要

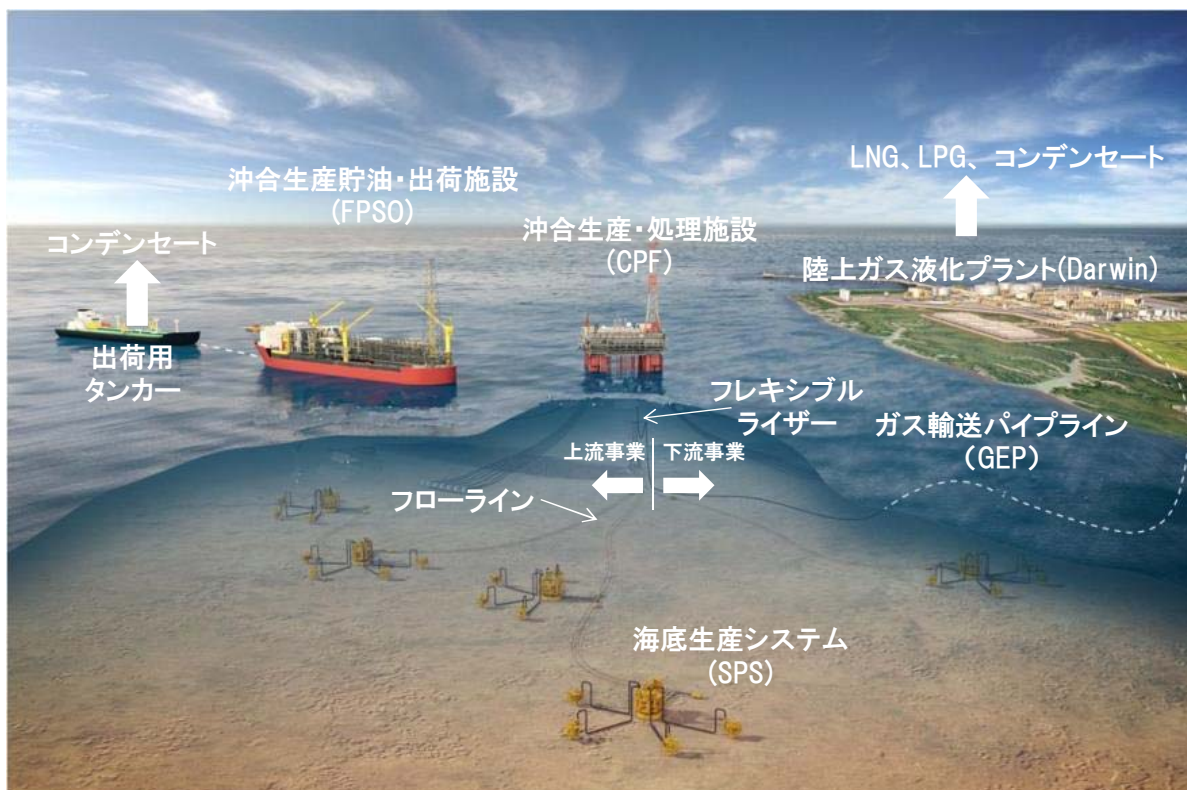
- 当社権益比率:66.245%(オペレーター)
- 生産量*1
 - 上流ガス*2: 日量約1,316百万立方フィート
 - 上流コンデンセート: 日量約5.4万バレル
- 出荷カーゴ数 (生産開始から2020年6月末までの実績)
 - LNG:171(内、2020年1月~6月は56)
 - 陸上コンデンセート:29(内、2020年1月~6月は9)
 - 海上コンデンセート:49(内、2020年1月~6月は16)
 - LPG:45(内、2020年1月~6月は16)
- 生産計画
 - プロジェクトライフ:約40年
 - LNG:年間約890万トン(生産能力)
 - LPG 年間約165万トン(生産能力)
 - コンデンセート 日量約10万バレル(ピーク時)
- 確認埋蔵量
 - 約10.11億 BOE(当社権益比率66.245%ベース)
- 複数の周辺鉱区保有、今後のポテンシャル期待
- マーケティング
 - LNG:年産840万トン分売買契約締結済
 - LNGの約7割が日本買主向け
 - LPG:当社権益全量等の売買契約締結済



- ファイナンス
 - 2012年12月、総額200億米ドルのプロジェクトファイナンスに係る融資関連契約に調印
- 開発作業時の主要EPC契約
 - 上流事業
 - ・沖合生産・処理施設(CPF):Samsung Heavy Industries(韓)
 - ・沖合生産貯油・出荷施設(FPSO):Daewoo Shipbuilding & Marine Engineering (韓)
 - ・海底生産システム(SPS):GE Oil & Gas(米)
 - 下流事業
 - ・陸上LNGプラント:日揮、千代田化工、KBR社(米)の企業連合
 - ・ガス輸送パイプライン(GEP):Saipem(伊)・三井物産・住友商事・メタルワン
 - ・ダーウィン湾内浚渫作業: Van Oord(蘭)
 - ・計装・制御システム: 横河電機(上流施設も含む)

*1 2020年6月平均日量

*2 井戸元の生産量ではなく下流事業者への販売に対応した数量(LNG・LPG・プラントコンデンセートの原料として上流から陸上プラントに送られるガス量)

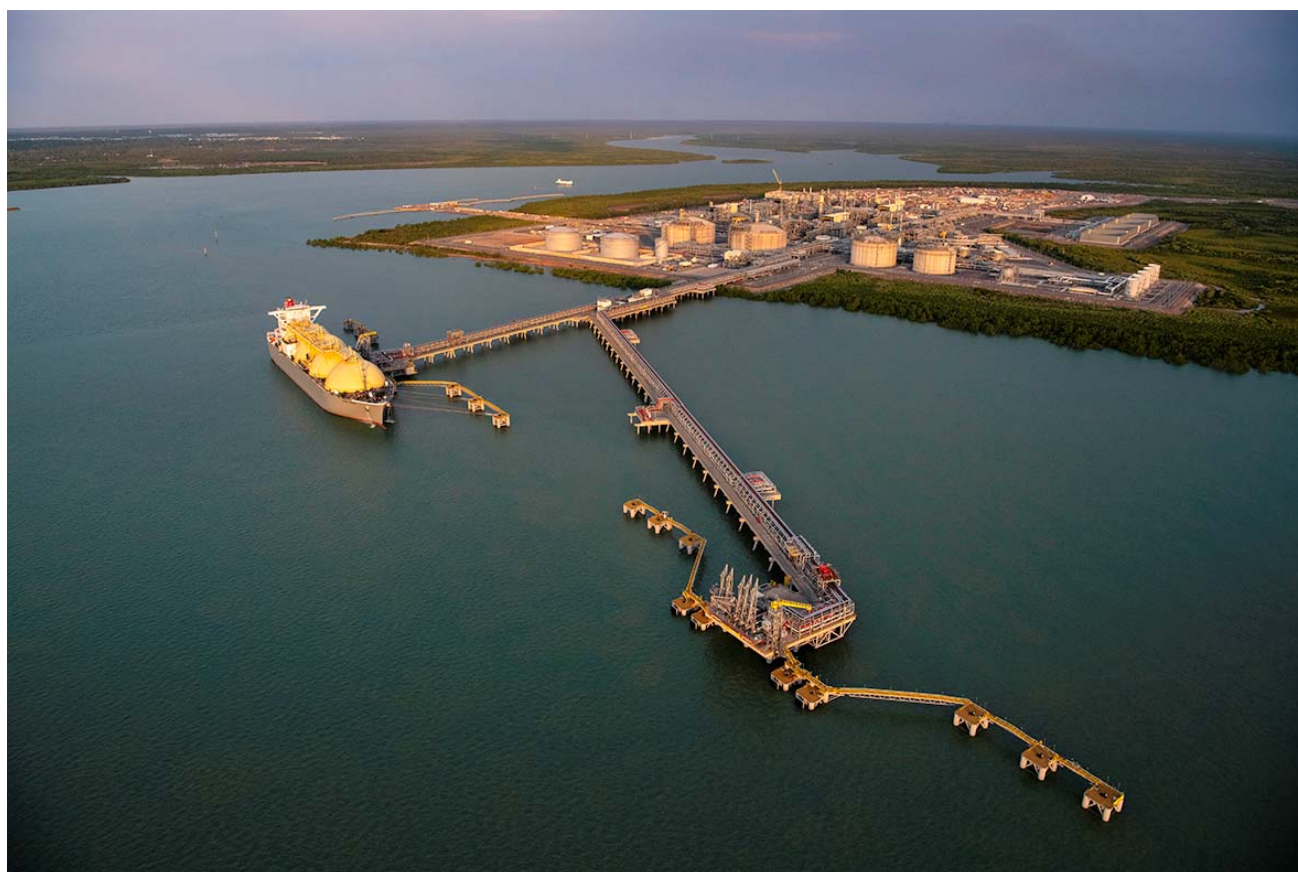


イクシスLNGプロジェクト FIDから生産・出荷開始までの軌跡

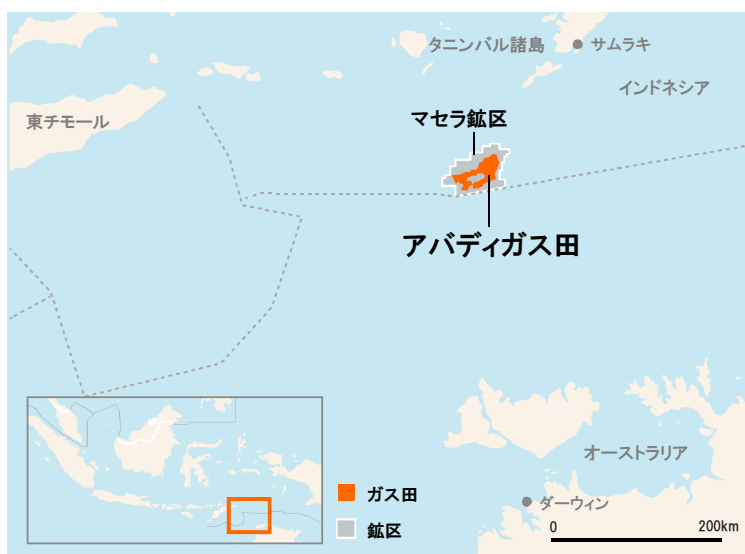
■ 最終投資決定(FID)以降の軌跡

主なマイルストーン	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
FID	●						
(沖合施設・生産井関連)							
・ CPF/FPSOの起工式		●					
・ CPF/FPSOの本格的な組み立て作業開始			●				
・ FPSOの進水			●				
・ ガス輸送パイプラインの敷設完了				●			
・ 生産井の掘削開始				●			
・ 海底フローラインの敷設完了					●		
・ CPF/FPSOの出航・イクシスフィールド到着・係留・接続完了						●	
・ CPF/FPSO等の試運転開始						●	
・ CPF/FPSO/海底生産システムの生産開始に必要な試運転完了							●
(陸上施設関連)							
・ 陸上ガス液化プラントの起工式	●						
・ 陸上ガス液化プラントのモジュール、棧橋、タンク等の建造開始		●					
・ ダーウィン湾内の浚渫作業完了			●				
・ 製品出荷棧橋の完成					●		
・ 全モジュールの完成・搬入完了					●		
・ 全製品タンクの水張試験完了						●	
・ 発電施設稼働開始						●	
・ 陸上ガス液化プラント第1トレインの生産開始に必要な試運転完了							●
(プロジェクト全般)							
・ 生産ライセンスの取得、プロジェクト・ファイナンス契約調印	●						
・ 建造施設への損害保険手配の完了		●					
・ LNG輸送に係るLNG船の新規造船・保有及び定期傭船契約の締結		●					
・ プロジェクト進捗50%の達成			●				
・ LNG生産能力の増大(年産約840万トン⇒約890万トン)				●			
・ アストムエネルギー㈱とのLPG販売に関する基本合意						●	
・ 直江津LNG基地向けLNG船・台湾CPC向けLNG船の命名式						●	
生産井からのガス生産開始							●
コンデンセート出荷開始、LNG出荷開始							●



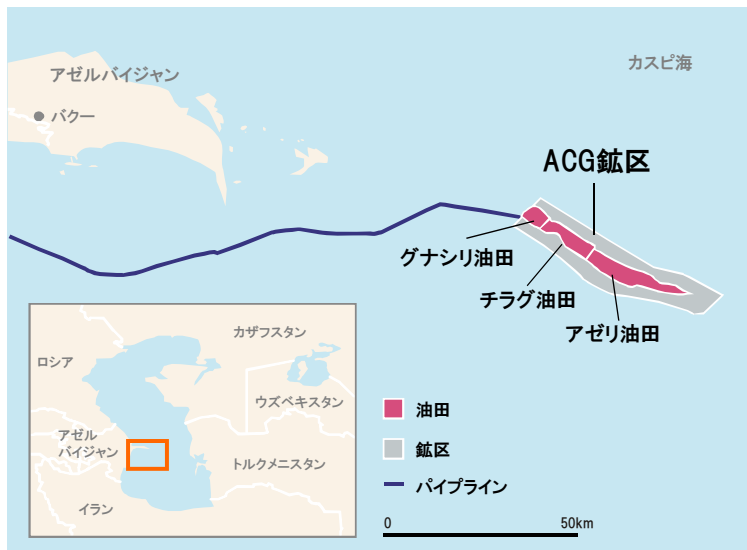


アバディLNGプロジェクト



一部暫定領海線を含む

- 当社権益比率:65% (オペレーター)
- 生産分与契約:2055年11月15日まで
(2019年10月延長契約等を締結)
- 生産規模
 - 天然ガス総生産量(LNG 換算)年産1,050 万トン
 - LNG年産950万トン規模
 - 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス日量1億5千万立方フィート供給を予定
 - コンデンセート日量最大約 3.5 万バレル規模
- マイルストーン
 - 2018年3月から10月、年産950万トン規模を想定する陸上LNGの概念設計(Pre-FEED)作業を実施
 - 2019年7月、陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画のインドネシア政府当局による承認取得
 - 早期の基本設計(FEED)作業開始を目指し、準備を継続。FEED 作業は、1~2年の期間を要する見込み
 - 2020年代後半の生産開始を目指す
 - 生産分与契約に基づき10%の参加権益をインドネシア政府の指定するインドネシア企業に譲渡する予定

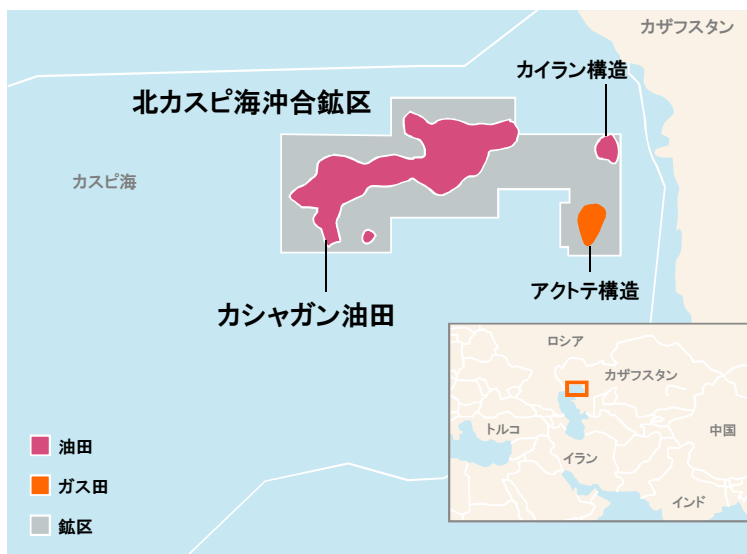


- 当社権益比率：9.3072%*1
(オペレーター:BP)
- 生産分与契約:2049年まで*2
- 原油生産量:平均日量49.7万バレル*3
- マイルストーン
 - 1997年、チラグ油田生産開始
 - 2005年2月、アゼリ油田中央部生産開始
 - 2005年12月、アゼリ油田西部生産開始
 - 2006年10月、アゼリ油田東部生産開始
 - 2008年4月、グナシリ油田深海部生産開始
 - 2014年1月、チラグ油田西部生産開始
 - 2019年4月、アゼリ油田中東部新規生産プラットフォーム建設決定

*1 生産分与契約延長に伴い、当社権益比率は9.3072%へ変更。延長PS契約は2018年1月1日発効。

*2 2017年に、PS契約の2049年末までの延長が合意された。

*3 全鉱区ベース、2020年1月～6月の平均日産量。



- 当社権益比率:7.56% (オペレーター:NCOC, North Caspian Operating Company)
- 生産分与契約:2021年末まで (カシャガン油田)*1
- 原油生産量*2:日量約30万バレル
- マイルストーン
 - 2016年10月、原油出荷を開始
 - 生産日量37万バレル達成済。生産日量45万バレルを目指し作業中
 - アクトテ/カイランの2構造の評価期間を5年間延長して開発シナリオ検討を継続することについて、カザフスタン政府と合意

*1 現行のPSA条件にて10年×2回の延長(2041年まで)が可能

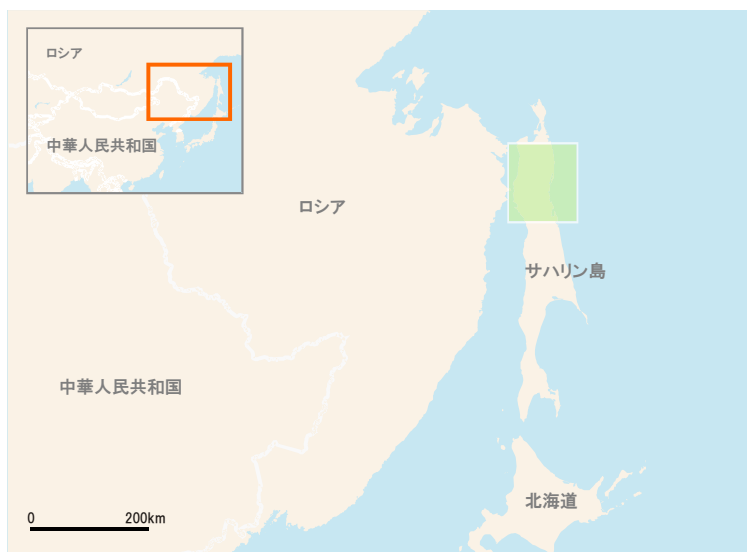
*2 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量



- 当社権益比率:2.5% (オペレーター:BP)
- 通油量:日量約64.4万バレル*
- マイルストーン
 - 2002年10月、当社、参加権益2.5%取得
 - 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
 - 2009年3月、輸送能力日量120万バレルまでの拡張作業を完了
 - 2010年9月13日、累計10億バレル出荷を達成
 - 2014年8月11日、累計20億バレル出荷を達成
 - 2018年7月17日、累計30億バレル出荷を達成

* 2019年平均通油量

サハリン-1 サハリン石油ガス開発



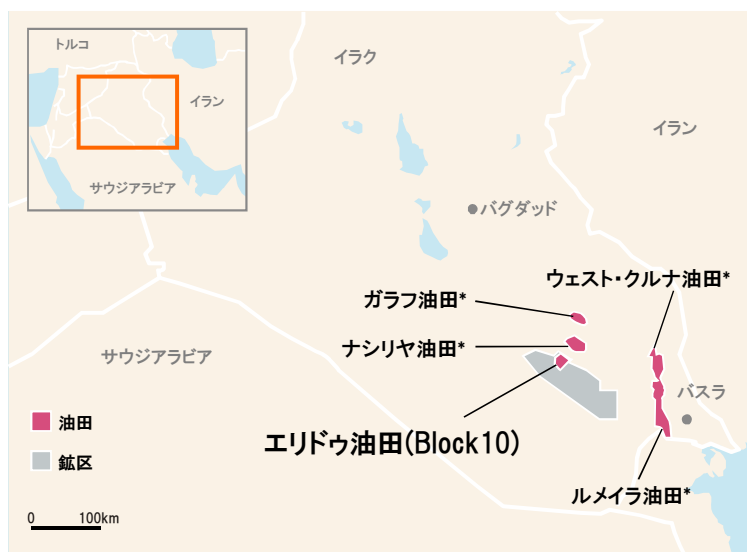
- サハリン石油ガス開発(SODECO)のサハリン-1における権益比率:30%
- 当社のSODECO株式持株比率:約6.08%
- オペレーター:Exxon Neftegas Limited
- マイルストーン
 - 2005年10月、チャイウオより生産開始、2006年10月原油輸出開始
 - 2010年9月、オドプトより生産開始
 - 2015年1月、アルクトン・ダギより生産開始
 - 天然ガスをロシア国内に供給中



- 日本南サハ石油(JASSOC)の東シベリアINKプロジェクトにおける株式保有比率:49.0% (INK ZAPAD社への出資)
- 当社のJASSOC株式持株比率:約24.998%
- オペレーター:INK ZAPAD社
- ライセンス契約: 25年間(2031年まで)
- 原油生産量*: 日量約2.3万バレル
- マイルストーン
 - 2014年11月、イチョディンスコエ油田より生産開始

* 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

イラク共和国ブロック10鉱区 (エリドゥ油田)
インパックス南イラク石油



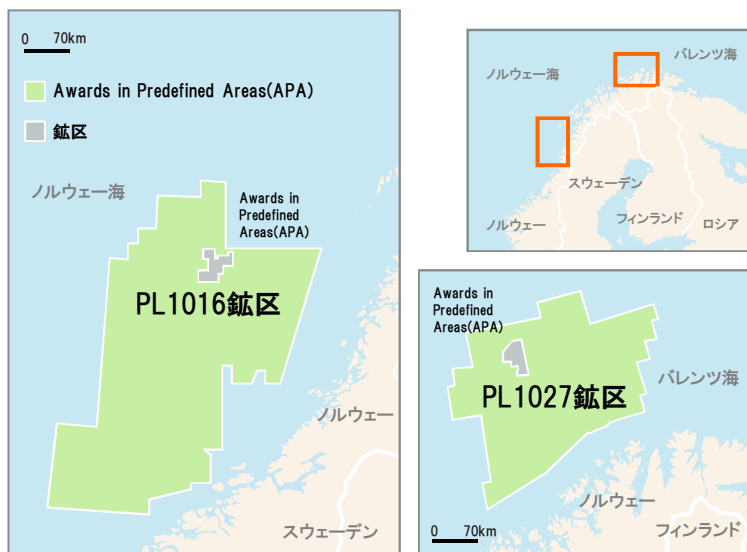
* 当社が権益を保有しない鉱区

- 当社権益比率:40% (オペレーター:Lukoil)
- 鉱区取得:2012年12月 (イラク共和国第4次公開入札にて)
- EDPSC*1
 - 探鉱期間: 9年間*2(2021年12月2日まで)
 - 開発生産期間:20年間*3
- マイルストーン
 - 2017年2月、試掘第1号井において油層を発見。その後、評価井を掘削し、油層の広がりを確認。
 - 油層が鉱区外へ伸長していると予測されたため、鉱区エリアの拡張申請を提出し、2017年11月に承認。
 - 商業開発の可能性を検討するため、探鉱および評価作業を実施中。

*1 探鉱、開発、生産サービス契約

*2 更なる探鉱・評価作業を実施するため、EDPSCに基づき探鉱期間を4年間延長。

*3 開発・生産期間は5年間の延長が可能。

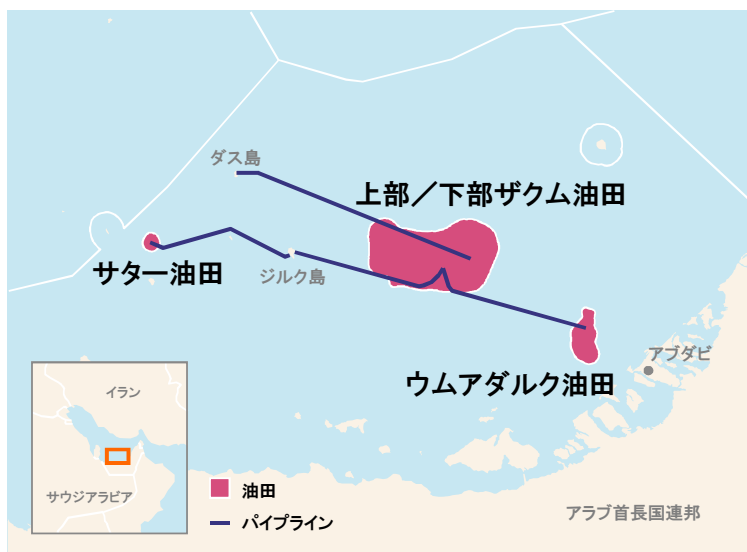


■ ノルウェー海北部PL 1016鉱区

- 当社権益比率:40%
(オペレーター:OMV Norge AS)
- 鉱区取得:2019年3月1日
- コンセッション契約:
 - 探鉱・評価期間7年間(2026年まで)
 - 開発生産期間25年間
- 2018APAラウンドにおいて単独入札し、2019年1月に落札

■ バレンツ海西部PL 1027鉱区

- 当社権益比率:20%
(オペレーター:Lundin Norway AS)
- 鉱区取得:2019年3月1日
- コンセッション契約:
 - 探鉱・評価期間8年間(2027年まで)
 - 開発生産期間25年間
- 2018APAラウンドにおいて単独入札し、2019年1月に落札
- 2020年:試掘井7221/4-1掘削予定



■ 上部ザクム油田(JODCO)

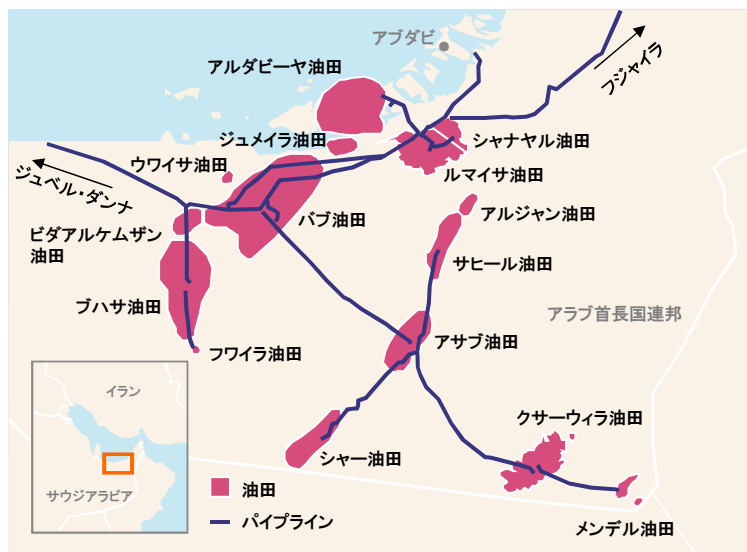
- 当社権益比率:12%
(オペレーター:ADNOC Offshore)
- 利権契約:2051年まで

■ 下部ザクム油田 (JODCO Lower Zakum Limited)

- 当社権益比率:10%
(オペレーター:ADNOC Offshore)
- 利権契約:2058年まで

■ サター油田・ウムアダルク油田(JODCO)

- 当社権益比率:40%
(オペレーター:ADNOC Offshore)
- 利権契約:2043年まで

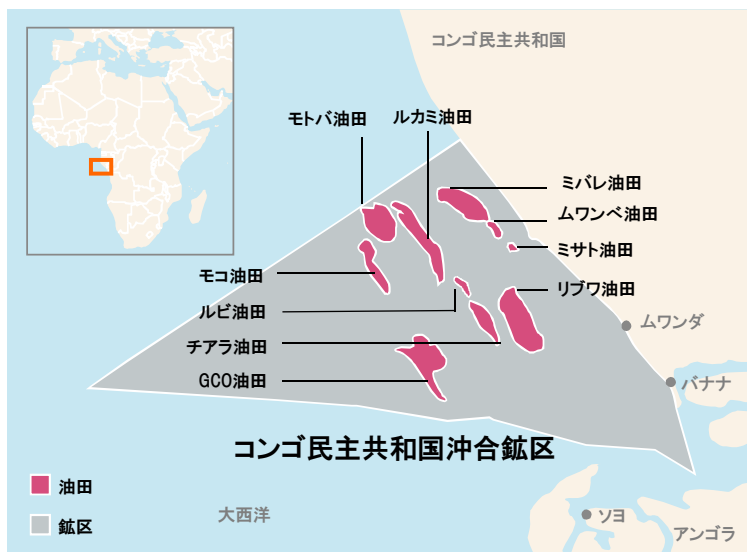


- 当社権益比率:5%
(オペレーター:ADNOC Onshore*)
- 利権契約:2054年まで

* 権益保有者が株主である操業会社、JODCO Onshore Limitedから5%を出資。

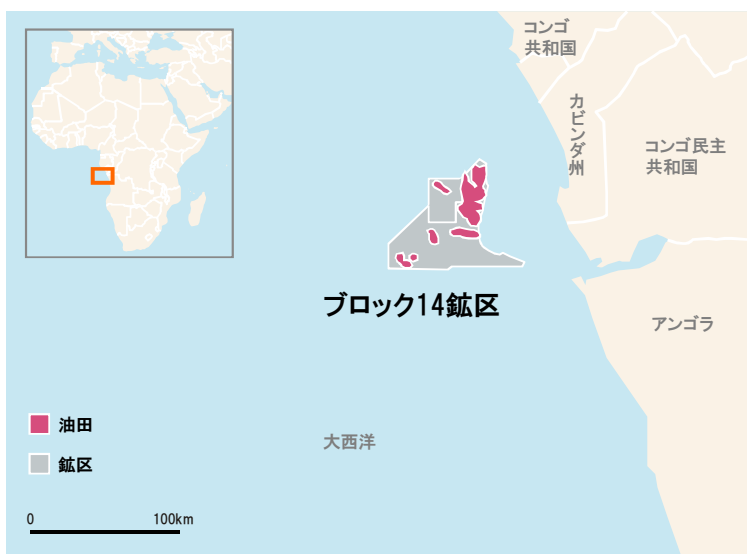


- 当社権益比率:100%
(オペレーター:JODCO Exploration Limited)
- 鉱区面積:約6,116平方キロメートル



- 当社権益比率:32.28%
(オペレーター:Perenco)
- コンセッション契約(1969~2043年)
- 生産開始:1975年
- 生産量*: 日量約1.4万バレル

* 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量



- 当社権益比率:9.998%
(オペレーター:Chevron)
- 生産分与契約
 - Kuito DA: 2023年まで
 - BBLT DA: 2027年まで
 - TL DA: 2028年まで
 - Lianzi: 2031年まで
- 生産量*: 日量約5.5万バレル

* 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量



■ 当社出資比率

- コパ・マコヤ (ガス事業):70%出資 (オペレーター)
- グアリコ オリエンタル (原油事業):30%出資

■ ジョイントベンチャー契約:2006~2026年

■ 生産量*1

- 天然ガス*2: 日量約47百万立方フィート

*1 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

メキシコ湾周辺プロジェクト

INPEX Americas, Inc. / INPEX E&P Mexico, S.A. de C.V.他



■ ルシウス油田 / ハドリアンノース油田 (INPEX Americas, Inc.)

- リース契約
- 当社権益比率:7.75309% (オペレーター: Occidental)
- 生産量*1
 - 原油:日量約3万バレル
 - 天然ガス*2:日量31百万立方フィート

➢ マイルストーン

- 2015年1月 原油及び天然ガスの生産開始
- 2017年9月に、ルシウス油田とルシウス油田の南側に位置するハドリアンノース油田のプロジェクトパートナーはユニタイゼーションに係る改定UPA (Unit Participating Agreement)を締結
- 2019年4月ハドリアンノース油田より生産開始
- 2019年6月 バックスキン油田からのルシウス油田の生産設備へのタイインを開始

■ メキシコ領メキシコ湾北部海域 Block3鉱区 (INPEX E&P Mexico PB-03, S.A. de C.V.)

- ライセンス契約
- 当社権益比率: 33.3333% (オペレーター:Chevron)

■ メキシコ領メキシコ湾南部海域 Block22鉱区 (INPEX E&P Mexico, S.A. de C.V.)

- ライセンス契約
- 当社権益比率: 35% (オペレーター:Chevron)

*1 全鉱区ベース、2020年6月平均日産量

*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量



- 当社権益比率:100%(オペレーター*1)
- リース契約
- リース権:約9,800ネットエーカー(約40平方キロメートル)
- 生産量*2 :
 - 原油:日量約1.2万バレル
 - 天然ガス:日量約13百万立方フィート
- マイルストーン
 - 2019年3月、GulfTex Energy社が米国テキサス州イーグルフォードシェールにおいて保有・操業するシェールオイル生産・開発権益を取得することに同社と合意。



掘削作業現場

*1 一部を除き、当社がオペレーター
*2 当社ネット生産量(2020年6月平均日産量)

主要会社一覧及び石油契約 (1/2)

■ 主要会社一覧及び石油契約*1

会社名	鉱区名またはプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	フェーズ
日本					
国際石油開発帝石	南長岡ガス田ほか*2	日本	コンセッション	-	生産中
アジア/オセアニア					
インパックス南マカッサル石油	セブク鉱区(ルビーガス田)	インドネシア	PS	100%	生産中
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲ-LNG)	インドネシア	PS	44%	生産・開発作業中
インパックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディLNG)*2	インドネシア	PS	51.9%	開発準備作業中
帝石コンソン石油	05-1b / 05-1c鉱区(サオバン・ダイグエット ガス田)	ベトナム	PS	100%	開発作業中
サウル石油	バユ・ウンダン	東チモール民主共和国	PS	100%	生産中
INPEX Browse E&P Pty Ltd	WA-285-P*2他	オーストラリア	コンセッション	100%	探鉱作業中
INPEX Ichthys Pty Ltd	WA-50-L及びWA-51-L(イクシス)*2	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
Ichthys LNG Pty Ltd	イクシスプロジェクト下流事業*2	オーストラリア	-	66.245%	生産中
INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	プレリウドFLNGプロジェクト	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
アルファ石油	ヴァンゴッホ油田/コニストンユニット	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
アルファ石油	ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中

*1 2020年6月末時点
*2 オペレータープロジェクト

■ 主要会社一覧及び石油契約*1

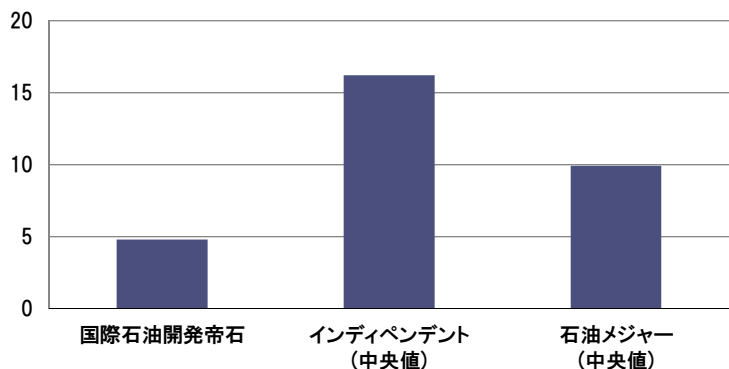
会社名	鉱区名またはプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	フェーズ
ユーラシア					
インペックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	生産中
インペックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	51%	生産中
中東/アフリカ					
ジャパン石油開発	上部ザクム油田等	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
JODCO Lower Zakum Limited	下部ザクム油田	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
JODCO Onshore Limited	陸上鉱区	アラブ首長国連邦	コンセッション	51%	生産中
帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	生産中
INPEX Angola Block14	アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区	アンゴラ共和国	PS	100%	生産中
米州					
Teikoku Oil & Gas Venezuela	コパマコヤ*2/グアリオリエントアル	ベネズエラ	コンセッション	100%	生産中
INPEX Americas, Inc	ルシウス油田/ハドリアンノース油田	米国	コンセッション	100%	生産中
INPEX Eagle Ford, LLC	イーグルフォードシェールオイル*3	米国	コンセッション	100%*3	生産中

*1 2020年6月末時点

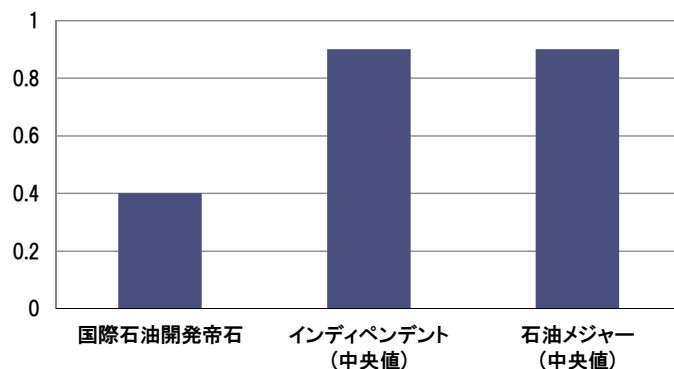
*2 オペレータープロジェクト

*3 一部を除き、当社がオペレーター

EV／確認埋蔵量*1



PBR*2



*1 EV(企業総価値)／確認埋蔵量 = (時価総額＋総有利子負債－預金及び現金同等物＋少数株主持分)／確認埋蔵量。時価総額は2020年6月30日時点。財務数値は2020年3月末時点(但し、一部2019年12月末時点)。確認埋蔵量は、2019年12月末時点。財務数値、確認埋蔵量は各社開示資料より。

*2 PBR = 株価／一株当たり純資産。時価総額は2020年6月30日時点。財務数値は2020年3月末時点(但し、一部2019年12月末時点)。財務数値は各社開示資料より。

Vision 2040

ビジョン 2040 エネルギーの未来に応える
Delivering tomorrow's energy solutions

3つの事業目標



石油・天然ガス
上流事業の持続的成長

国際大手石油会社
トップ10へ

- 量的(Volume)、質的(Value)な成長
- Volume: 生産量日量100万バレルを展望、埋蔵量を持続的に拡大
- Value: 純利益・営業CFを大幅に拡大、資本の効率性を向上



グローバルガス
バリューチェーンの構築

アジア・オセアニアにおける
ガス開発・供給の
主要プレイヤーへ

- アジア等の成長市場における需要開拓
- 国内ガス供給量30億m3超に拡大
- 上流ガス権益の価値最大化
- 需給調整・トレーディング機能の維持・強化



再生可能エネルギーの
取り組みの強化

ポートフォリオの
1割へ

- 気候変動への積極的対応
- シナジーのある地熱開発に加え、風力発電事業等への参入拡大
- 温室効果ガス削減に関する技術研究・開発の継続

基盤整備 CSR経営の実践、特に気候変動対応の推進+INPEXの強みを活用

事業活動の低炭素化、ESGの取り組み強化、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献
プロジェクトが生み出すキャッシュを株主還元・成長投資に配分

持続的な企業価値の向上

* 2018年5月11日発表



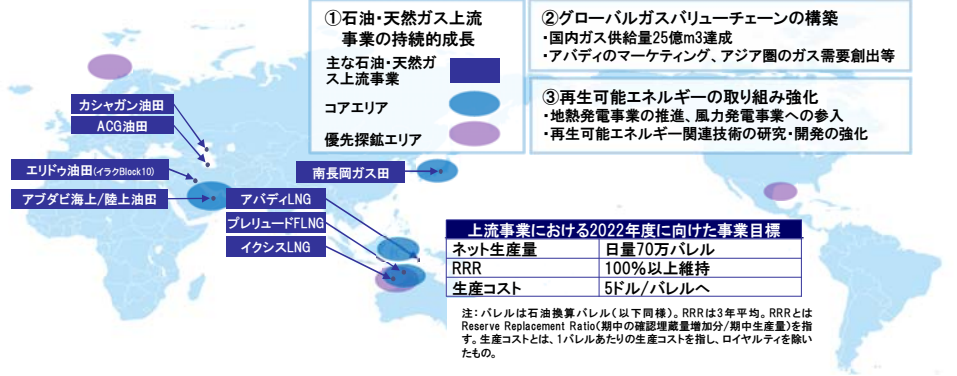
5年間の資金配分*



注: *原油価格60ドル、為替110円前提、イクシス下流会社含む
**「事業の主な取り組み」の①～③に係る全ての支出

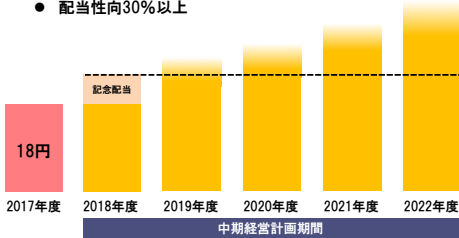


事業の主な取り組み



株主還元の強化

- 2018年度:イクシスLNGプロジェクトの生産及び出荷後、記念配当実施の方針
- 中計期間中、以下の還元方針
 - 1株18円 + 上記記念配当の合計額を下回らないよう安定的に配当
 - 業績の成長に応じて段階的に一株当たり配当金を引き上げ
 - 配当性向30%以上



経営目標

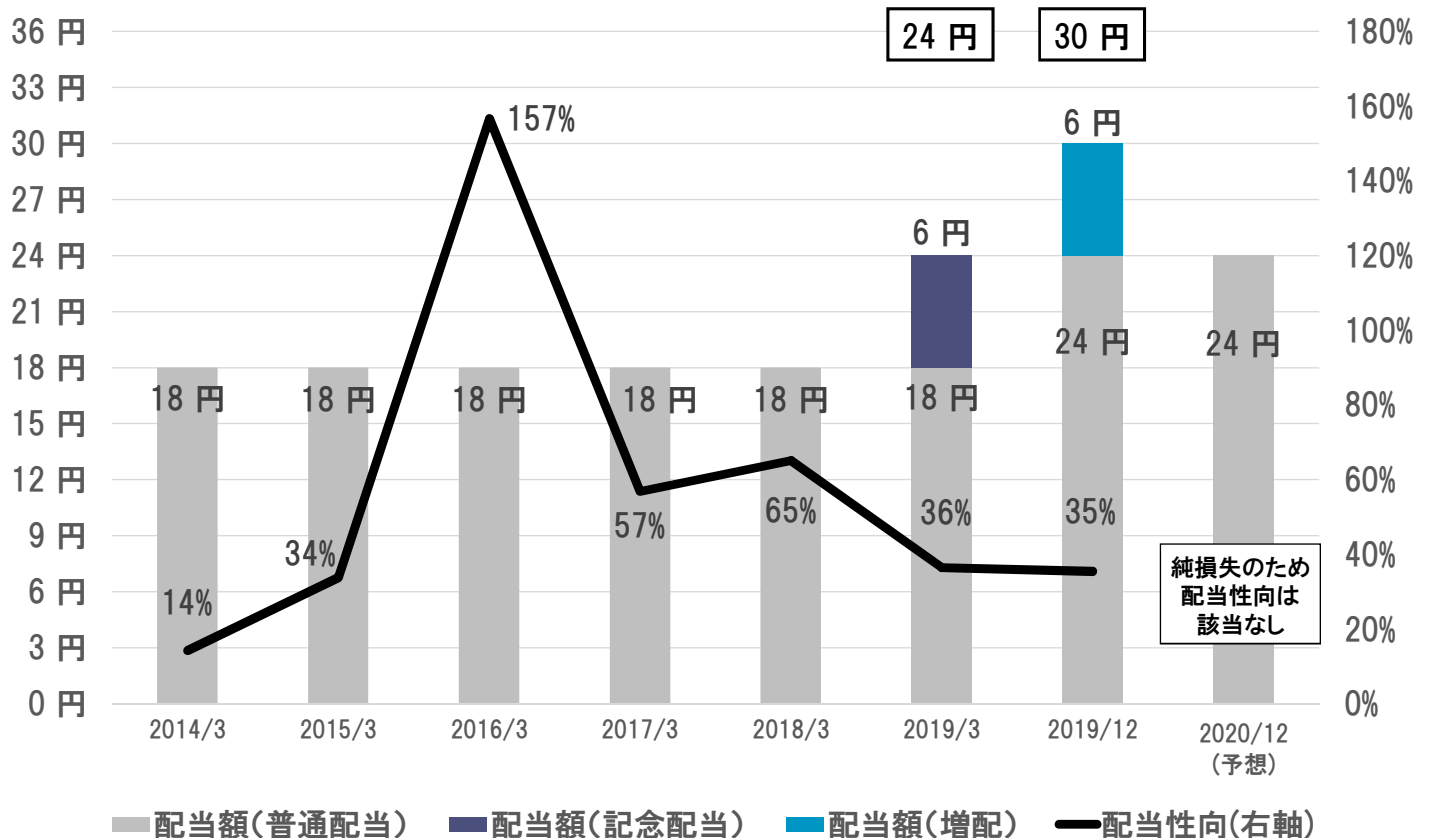
	2022年度	2017年度実績
原油価格・為替前提	60ドル・110円	57.85ドル・110.86円
売上高	1兆3,000億円程度	9,337億円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,500億円程度	403億円
営業キャッシュフロー	4,500億円程度	2,785億円
株主資本利益率(ROE)	5%以上	1.4%

- 財務健全性を維持(自己資本比率50%以上を目安)
- 油価50ドル/バレル継続時も安定した事業運営が可能な体制を維持

注: 原油価格はブレント原油1バレル、為替前提は1米ドルあたりの数値。各指標は制度会計ベース。原油価格・為替レートのセンシティブ性は、2022年度の連結親会社株主に帰属する当期純利益に対し、油価1ドル/バレル上昇(下落)+80億円(△80億円)程度、為替1円/米ドル円安(円高)+20億円(△20億円)程度の試算。その他の留意事項は「中期経営計画2018-2022」(URL: https://www.inpex.co.jp/company/pdf/business_plan.pdf)のP.5をご覧ください。

※2018年5月11日発表

当社一株当たり年間配当額、配当性向の推移



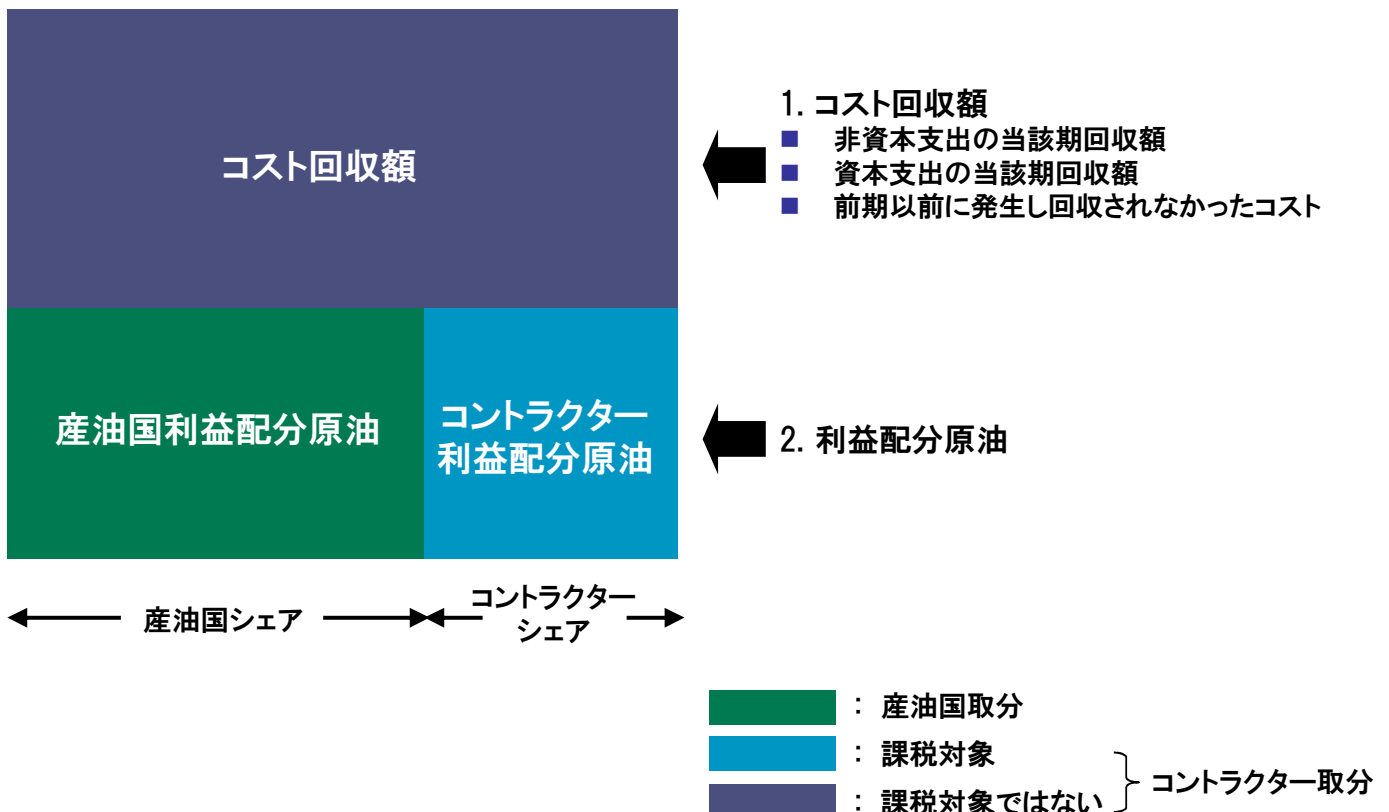
■ 6つのCSR重点テーマを中心に、事業を通じてESG各分野で責任ある企業としての取組みを推進

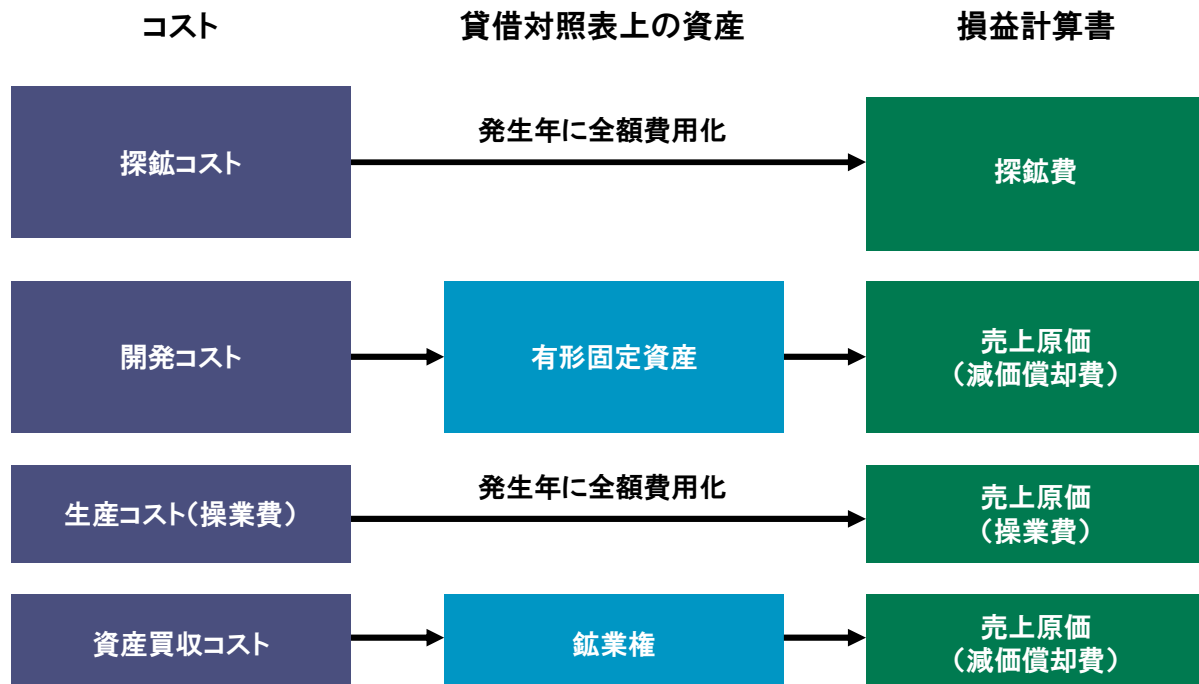
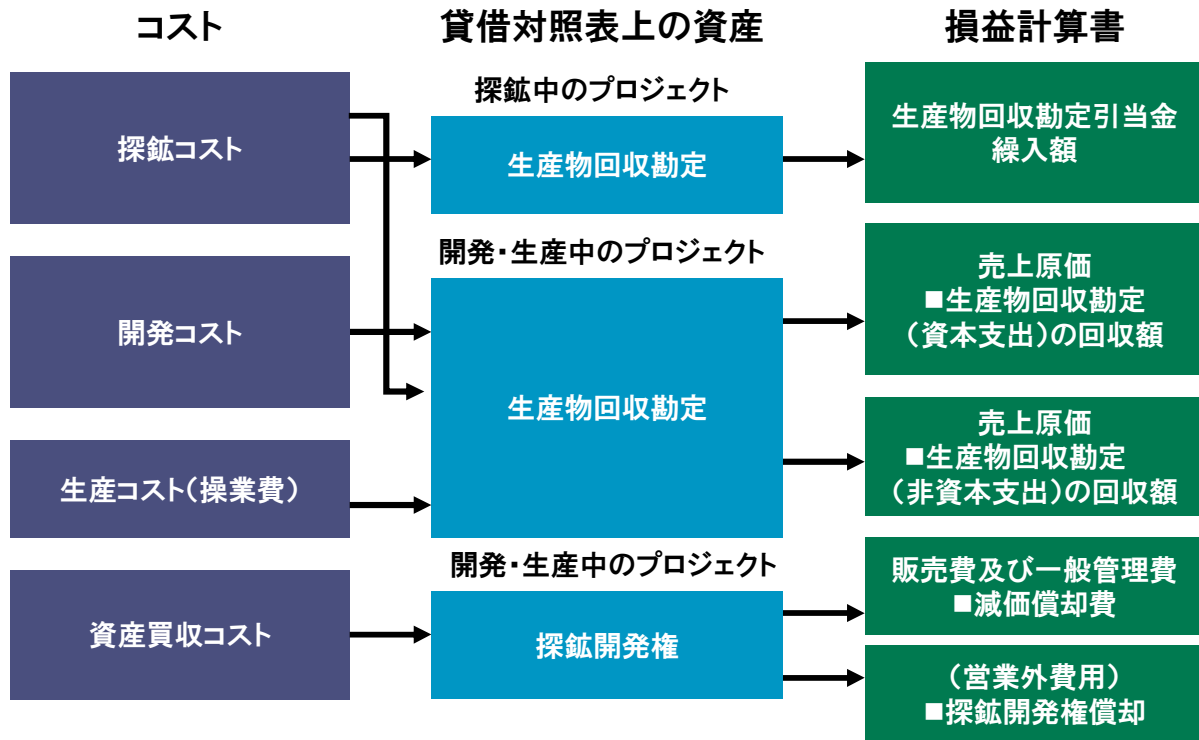


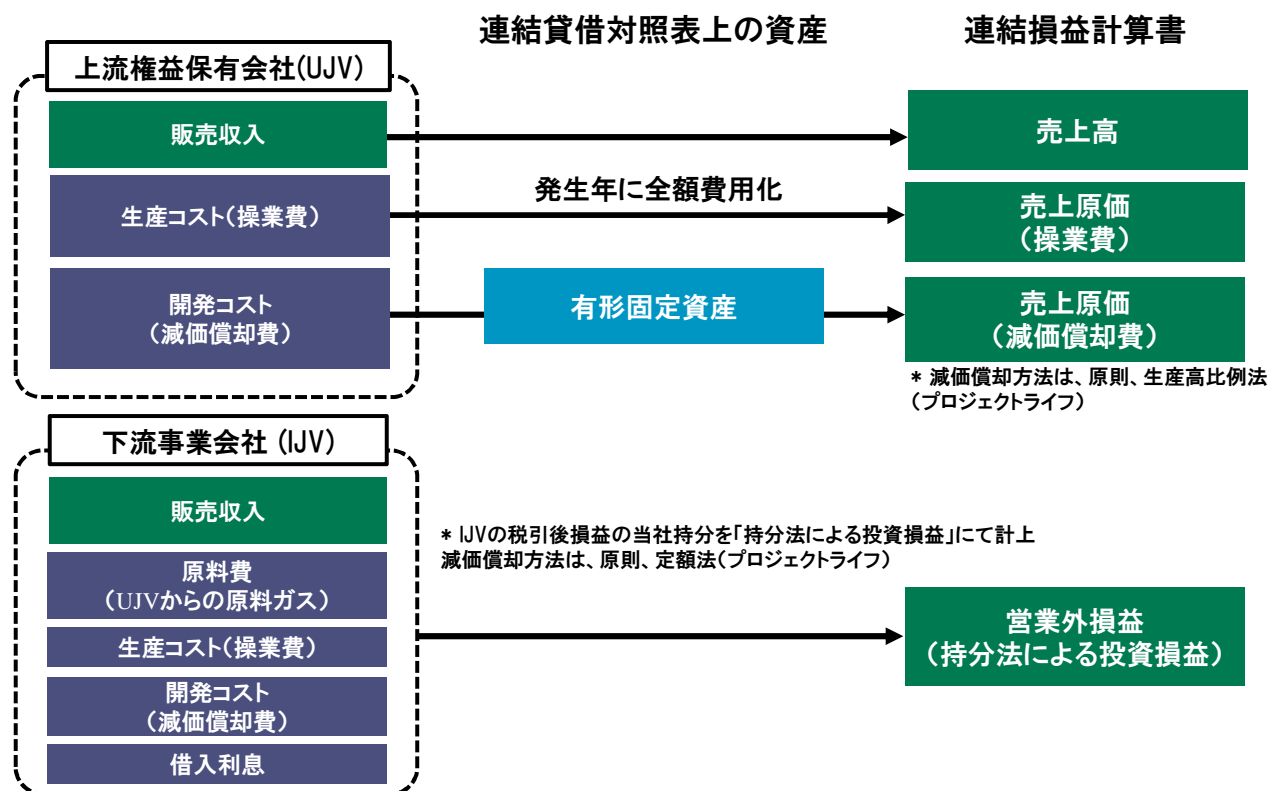
■ 主要ESGインデックスへの組入れ状況

FTSE	当社はFTSE Russell社が選定するFTSE4Goodインデックスシリーズのうち、Global IndexとJapan Indexおよび年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用対象とするESG指数であるFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に採用されています。
MSCI	当社は米国のMSCI (Morgan Stanley Capital International) 社が開発した、ESG面で優れた企業を選定する代表的な株価指数であるMSCI ESG Leaders Indexesおよび年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用対象とするESG指数であるMSCIジャパンセレクト・リーダーズ指数、MSCI日本株女性活躍指数(WIN)の構成銘柄に採用されています。
S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数	当社は米国のS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社が開発した、業種内で炭素効率性が高く(温室効果ガス排出量÷売上高が小さい)、温室効果ガス排出関連の情報開示を行っている企業への投資ウェイトを高めたS&P/JPXカーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に採用されています。同指数は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用対象とするESG指数に選定されています。

生産分与契約

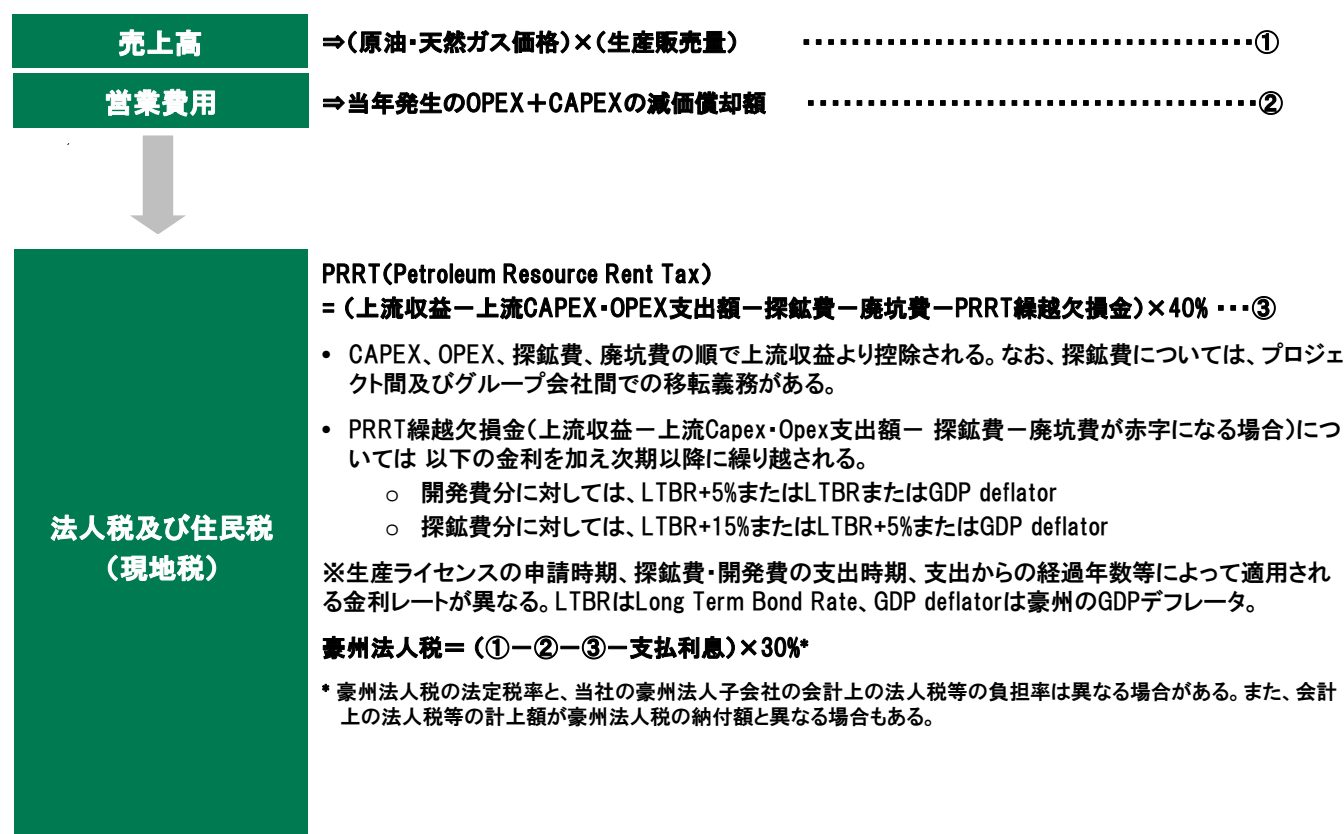




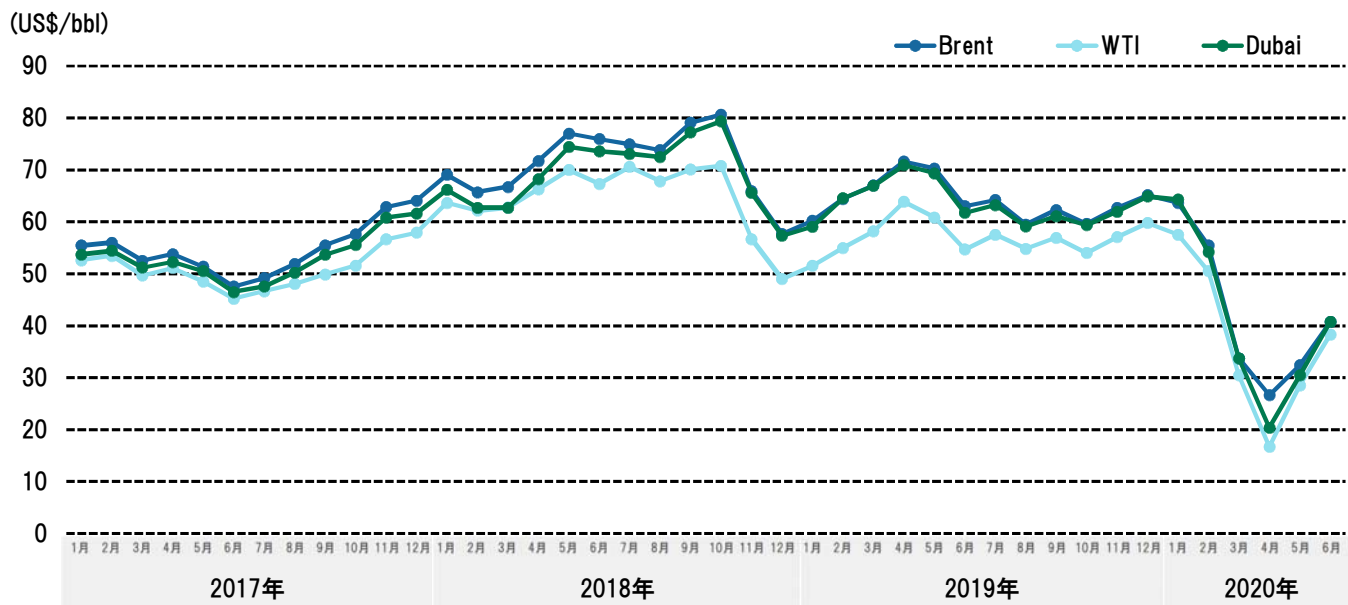


* 下流会社(IJV)は持分法適用会社であり、同社のキャッシュフローは連結キャッシュフロー計算書上に表示されない。
* コストは主なもの

豪州税制の概要



※本スライドの記載内容については、今後税制の改正等に伴い変更の可能性があります。



	2019年1-6月 平均	2019年12月期 (9ヶ月) 平均	2020年						2020年12月期 1-6月 平均
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	
Brent	66.11	64.27	63.67	55.48	33.73	26.63	32.41	40.77	42.12
WTI	57.36	57.74	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	37.01
Dubai	65.45	63.53	64.29	54.22	33.70	20.39	30.47	40.79	40.64